

天草災害史・江戸時代

西暦	元号	月日	種別	内容
744	天平	16 5月	地震	大地震・八代、天草、葦北三郡の官舎、田290余町、民家470余区が水没・溺死1520余人・圧死40余人・推定M7.0・(続日本書紀)
1600	慶長	5		
1601	慶長	6		
1602	慶長	7		
1603	慶長	8		
1604	慶長	9		
1605	2.3 慶長	10 9.12.16	地震	慶長地震
1606	慶長	11		
1607	慶長	12		
1608	慶長	13		
1609	慶長	14		
1610	慶長	15		
1611	慶長	16		
1612	慶長	17		
1613	慶長	18		
1614	慶長	19		
1615	元和	1		
1616	元和	2		
1617	元和	3		
1618	元和	4		
1619	元和	5 3.17	地震	八代地方地震・麦島城破壊。 八代大地震・麦島城倒壊・推定M6.0～6.2。 「刃野刻り大地震、牛ノ刻二至り城楼崩壊」「年中ゆる」
1619	元和	5 12.5	気象	暖冬・麦作痛み。
1620	元和	6		
1621	元和	7 1.-	火事	江戸大火。
1622	元和	8		
1623	元和	9		
1624	寛永	1		
1625	寛永	2 6.17	地震	肥後大地震・熊本城も被害、煙硝で火災。M5.0～6.0 熊本城天守付近の石垣など被災・死者50余人・推定M5.0～6.0
1626	寛永	3		
1627	寛永	4		

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1628	寛永	5		
1629	寛永	6		
1630	寛永	7		
1631	寛永	8		
1632	寛永	9		
1633	寛永	10		
1634	寛永	11		
1635	寛永	12 7.25	気象	九州地方大風・潰家、倒木、田畑損傷大。
1635	寛永	12 この年	暮らし	気候不順・凶作。
1636	寛永	13 この年	暮らし	凶作・米価高騰、諸民困窮。
1637	寛永	14 8.11	火山	阿蘇山噴火・砂石硫黄噴出。17日も。
		10.-	事件	天草島原一揆。翌年2月終息。
1638	寛永	15		
1639	寛永	16 7.23	暮らし	凶作・臨時高札が建てられる。
1640	寛永	17 この年	暮らし	凶作・
1641	寛永	18		
1642	寛永	19 この年	暮らし	米価高騰・諸民苦しむ。
1642	寛永	19 5.28	地震	夜肥後にて地震4回。
1643	寛永	20 3.28	地震	肥後地方地震4回。 夜肥後地方地震4回。
1644	正保	1 6.25	気象	大雨洪水・稲作被害大・不作。
1645	正保	2 この夏	気象	大旱魃・雨ごい。
1645	正保	2 7.29	気象	九州中国地方で大風・被害甚大。
1645	正保	2 この秋	暮らし	気候不順により、稲作凶作。
1646	正保	3		

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1647	正保	4		
1648	慶安	1 9.2	地震	早朝、肥後にて地震。
1648	慶安	1 9.11	地震	肥後地震。
1649	慶安	2		
1650	慶安	3 8.12	気象	大風雨・長崎天草で海浜潮害・民家流失、田の損害甚だし。
1650	慶安	3 9.2	地震	肥後地震
1651	慶安	4 9.2	地震	肥後にて地震
1652	承応	1		
1653	承応	2 8.5	気象	肥後で大風・大木倒れ岩石を吹き割るほど・潮害、田畑の損耗甚大。
1654	承応	3		
1655	明暦	1		
1656	明暦	2		
1657	明暦	3 1.19	火事	江戸大火・江戸城炎上・死者10万7千人。(振袖火事)
1657	明暦	3 この年	気象	10月から11月にかけて寒気強く・12月は夏のごとき暑さ・
1657	明暦	3 この年	病気	異状気象による疫病流行。
1658	万治	1 5.12	気象	大雨洪水。
1658	万治	1 6.6	気象	この日より12日まで大雨続く。12日には大洪水。
1658	万治	1 8.19	気象	この日より翌日まで肥後、豊後両国で大風、洪水。
1659	万治	2 8.13	病気	この月より11月まで干天による疫病流行。
1660	万治	3 1.17	気象	夜、肥後非常の大雨。
1660	万治	3 5.-	気象	この月より、7月まで大旱魃。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1661	寛文	1 5.7	気象	この夜、寒気で冬のよう・また、翌月降雨無く、稲植付困難。
1661	寛文	1 6.-	気象	この月より翌月にかけて降雨無し。
1661	寛文	1 7.1	地震	肥後大地震・翌日まで中小地震3回。
1662	寛文	2 5.1	地震	西国諸国大地震。
1662	寛文	2 5.8	気象	大雨洪水。
1662	寛文	2 この夏	病気	長崎で疱瘡大流行・3,300余人の死者。
1662	寛文	2 9.19	地震	夜、大地震。 肥後地震
1662	寛文	2 10.19	地震	球磨地震
1663	寛文	3 この春	気象	春より夏にかけて大旱魃。
1663	寛文	3 4.18	火事	富岡町三丁目焼失。
1663	寛文	3 この夏	病気	夏より秋にかけて、疫病大流行。
1663	寛文	3 7.26	気象	三時ばかり九州大雨・肥薩はことのほか激しい。
1663	寛文	3 この秋	暮らし	凶作・郡中困窮。
1663	寛文	3 11.23	火山	温泉岳鳴動・翌朝噴煙。
1664	寛文	4		
1665	寛文	5 4.1	地震	肥後地方大地震・一日中に4回。 は4月10日
1665	寛文	5 5.22	気象	大雷雨・大水。
1666	寛文	6		

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1667	寛文	7 4.-	気象	この月下旬より5月上旬にかけ、大水洪水。
1668	寛文	8		
1669	寛文	9 8.11	気象	この日より翌日にかけ、北東の大風雨・肥後大洪水。その後、10月まで干天続く。凶作。
1670	寛文	10		
1671	寛文	11		
1672	寛文	12 10.-	暮らし	この月前後より肥後領内の牛斃死するもの多く、翌年6月まで続く。
1672	寛文	12 この年	暮らし	虫害激しく、秋作不作。
1673	延宝	1 この年	暮らし	11月までに郡中の牛馬4千匹余も斃死する。
1674	延宝	2		
1675	延宝	3 この春	暮らし	飢饉。
1675	延宝	3 4.-		大雨洪水。
1676	延宝	4 4.5	気象	大雨洪水。
1676	延宝	4 4.18	気象	この日より5月24日まで大雨洪水・堤防人家等の被害少なからず・田畑損耗甚大。
1676	延宝	4 6.-	気象	大風。
1676	延宝	4 この秋	暮らし	稲作凶作。
1677	延宝	5 8.6	気象	大風。
1678	延宝	6 1.9	火山	桜島噴火。
1678	延宝	6 8.5	気象	九州地方大風雨・天草も大被害。
1678	延宝	6 12.22	火事	富岡町大火。4、5丁目、新町残らず焼失。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1678	延宝	6 この年	暮らし	稲作凶作。
1679	延宝	7		
1680	延宝	8 8.-	気象	大風・全壊家屋その他、被害甚大。
1680	延宝	8 閏8.6	気象	西海諸国大風雨・洪水。
1680	延宝	8 この年	暮らし	大飢饉。
1681	天和	1		
1682	天和	2		
1683	天和	3		
1684	貞享	1		
1685	貞享	2 5.-	気象	大風雨・富岡町瑞林寺かけ崩れ。
1685	貞享	2 7.3	気象	午前9時頃より北の大風・翌日午前5時頃まで吹き荒れる。
1686	貞享	3		
1687	貞享	4		
1688	元禄	1		
1689	元禄	2		
1690	元禄	3 この年	火事	富岡新町大火・寿覚院他多くの寺類焼。
1691	元禄	4		
1692	元禄	5 4.-	気象	旱魃。
1693	元禄	6 4.-	気象	この月中旬から6月中旬まで干天。
1693	元禄	6 6.25	気象	夜にかけ大風・大木倒壊多し。
1693	元禄	6 12.26	気象	郡中大雪・70cm以上の積雪。
1693	元禄	6 12.-	火事	富岡町大火・三丁目中ほどより南へ、50余軒焼失。
1694	元禄	7 11.26	気象	大雪・80cm以上積雪。
1695	元禄	8 4.-	地震	大地震。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1695	元禄	8 5.-	気象	昨年冬よりこの月まで雨天がち。
1696	元禄	9		
1697	元禄	10 3.26	気象	豪雨、洪水、大風。
1697	元禄	10 5.29	気象	この日より6月1日まで大雨出水。
1697	元禄	10 6.-	気象	この月初旬より7月初旬まで降雨無し。
1697	元禄	10 7・8	暮らし	7、8月田作に外注大量発生・損耗大。
1698	元禄	11		
1699	元禄	12 6.9	気象	大雨洪水。
1699	元禄	12 6月	地震	益城にて被害あり。
1700	元禄	13		
1701	元禄	14		
1702	元禄	15 この年	火事	御領芳證寺失火により焼失。
1703	元禄	16 この年	暮らし	凶作・郡民困窮。
1704	宝永	1 8.-	暮らし	引き続き飢饉。
1705	宝永	2 閏4.2	地震	肥後地震・丑告り卯刻(2時～6時)まで地震。 この年、阿蘇大地震。
1706	宝永	3 4月	地震	肥後大地震。大地破れ家屋の倒壊、圧死するもの多数。
1706	宝永	3 6.25	気象	大風。
1706	宝永	3 8.18	気象	高潮。
1706	宝永	3 8.-	病気	亀川村で疱瘡流行。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1707	宝永	4 10.4	地震	大地震(これは、放映大地震の事か?) 宝永大地震・推定M8.6。
1707	宝永	4 11.23	火山	富士山大噴火(宝永山出現)。
1708	宝永	5 8.4	火山	阿蘇山の池水、主に染まり魚類死す。
1709	宝永	6 1.4	火山	阿蘇山噴火・新池を生ず。
1710	宝永	7 7.22	気象	北の大風。
1711	正徳	1		
1712	正徳	2 7.1	気象	20時より翌日10時まで大風。
1712	正徳	2 11.23	火事	富岡瑞林寺失火により焼失。
1713	正徳	3 2.-	暮らし	凶作にて、郡中難渋。
1713	正徳	3 7.13	気象	大風。
1714	正徳	4 この年	暮らし	凶作にて大飢饉。
1715	正徳	5		
1716	享保	1 4.23	気象	夜にかけ南の大風。
1717	享保	2 この夏	気象	入梅の頃より雨降らず旱天。
1717	享保	2 7.15	気象	この日少雨があっただけで大旱魃。
1718	享保	3		
1719	享保	4 この年	暮らし	秋作不熟。
1720	享保	5		
1721	享保	6		
1722	享保	7		

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1723	享保	8 11.22	地震	朝8時3度地震・夜また3度地震。 肥後大地震・山鹿で被害甚大・死者2人、負傷者25人、家屋倒壊980棟、推定M6.5、12月11日夜地震、12月28日夜地震。 肥後・豊後・筑後:肥後で倒家980、死2・飽田山本、山鹿、玉名、菊池、合志各郡で強く、柳川辺でも強く感じた。
1723	享保	8 11.28	地震	夜半に一度地震。
1724	享保	9 この夏	気象	春より夏にかけ大旱魃。
1724	享保	9 8.13	気象	豪雨洪水・ところどころ荒地が出来る・刈附けの稲が流される。
1724	享保	9 8.14	気象	風雨・午前8時より大風・富岡飛龍宮社殿、民家14軒破壊される。
1725	享保	10 5.13	気象	この日より16日まで大雨洪水・田荒多し・
1725	享保	10 5.26	気象	この日より翌日まで大雨洪水・ところどころ崩れ地発生。
1725	享保	10 9.25	地震	深夜2時頃大地震・翌26,27,28と余震あり。 天草地方大地震・26日、27日、28日と余震あり。
1725	享保	10 この年	暮らし	虫害により、稲作不作。
1726	享保	11 この年	暮らし	虫害により、稲作第不作。
1727	享保	12 この春	暮らし	一昨年以来の不作続きで、当春より郡民悉く飢餓に瀕する。
1728	享保	13 この春	暮らし	今年も虫害甚だしく、凶作。
1729	享保	14 4.28	気象	大風。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1729	享保 14	8.19	気象	強風。
1729	享保 14	9.13	気象	強風。
1729	享保 14	この年	暮らし	郡中大飢饉・餓死者400余人。
1730	享保 15	この年	暮らし	虫害及び旱魃にて稲作不作・郡民困窮。
1731	享保 16	1.7	気象	大雪・平地で30cmも積もる。
1731	享保 16	この春	暮らし	犬はしかが近国とも郡中でも流行・無性に人に噛みつき、噛まれた者過半数が百日、2百日目に死亡する。
1732	享保 17	5.6	気象	この日より20日夕方まで雨天続く。
1732	享保 17	閏5.6	気象	この日より23日まで連日大雨。
1732	享保 17	閏5.11	気象	この夜特に大雨。富岡・山方役人家屋へのがけ崩れで家族3人死亡。
1732	享保 17	閏5.24	暮らし	この日より晴れあがり、6月26日まで干天続き。そのため虫害甚だしく、作物皆無・郡中種もみにも事欠き、志岐村に僅かに存するのみ。
1732	享保 17	この年	暮らし	米穀払底、米価高騰・特に中国、四国、西国筋で甚だしく、餓死するもの少なからず。
1733	享保 18	1.-	暮らし	この頃まで西南諸国で餓死する者、96万9千9百人に達す。 郡中に飢饉の時の付きもの疫病流行。
1733	享保 18	8.16	暮らし	14時頃南の大風・西目筋作物被害・富岡では、西の海大浪により、町家16軒損壊・浸水による被害。
1734	享保 19	5.1	気象	この日より15日まで強雨洪水。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1735	享保 20	4.23	気象	この日より26日まで昼夜大雨が降り続き、田畑作物大痛み。
1736	元文 1			
1737	元文 2			
1738	元文 3	6.2	気象	この日より7月10日迄頃まで干天続く。
1739	元文 4			
1740	元文 5	この春	気象	気候不順・麦作不熟。
1740	元文 5	9.2	気象	強風。
1740	元文 5	この年	暮らし	大凶作。
1741	寛保 1			
1742	寛保 2	3.2	火山	桜島噴火。
1743	寛保 3	7.13	気象	大風。・富岡で町家6軒付記潰れ、飛龍宮境内の併社三社も吹き飛ばされる。
1744	延享 1			
1745	延享 2	8.13	気象	雨勝ちにて田浸水・損耗甚だしく大不作。
1746	延享 3			
1747	延享 4	9.3	気象	高潮で、人畜に被害あり。
1748	寛延 1	9.2	気象	大風雨にて、高潮、倒家倒木甚だしく、田浸水して損害甚大。
1749	寛延 2			
1750	寛延 3	この年	暮らし	田虫害のため損耗少なからず・減税あり。
1751	宝暦 1			
1752	宝暦 2			
1753	宝暦 3			
1754	宝暦 4			
1755	宝暦 5	6.1	気象	この日より9日まで強雨、洪水・山崩れによる破損流家多し。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1755	宝暦	5 8.24	気象	この夜大風雨・被害甚大。
1756	宝暦	6 4.17	気象	この日より翌18日まで強雨、洪水。
1757	宝暦	7 6.-	気象	大旱。
1758	宝暦	8		
1759	宝暦	9 3.1	気象	大雨洪水。
1759	宝暦	9 7.22	気象	この日より24日まで強雨洪水。
1760	宝暦	10 6.-	気象	干天続く。
1761	宝暦	11		
1762	宝暦	12 5.-	気象	4月末以来干天。
1763	宝暦	13 5.28	気象	強雨洪水。
1764	明和	1 7.-	気象	干天続く。
1765	明和	2 1.-	火山	阿蘇山、この月下旬より秋の末まで鳴動はげしく、豊後、築後、肥前、薩摩まで降灰あり。
1766	明和	3 2.1	火事	島原城下町大火。
1766	明和	3 2.27	火事	長崎大火。
1766	明和	3 5.25	気象	強雨洪水。
1767	明和	4 6.-	暮らし	郡中田虫害甚だしく、被害甚大。
1768	明和	5 6.-	気象	5月末よりこの月にかけて大旱。
1769	明和	6 6.11	地震	肥後川尻大地震。 肥後川尻大地震。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1769	明和	6 6.-	病気	富岡町疱瘡流行。
1769	8.29 明和	6 7.28	地震	熊本大地震。 73/4 日向、豊後、肥後、延岡城、大分城で被害多く、寺社、町家の破損が多かった。熊本領内でも被害が多く、宇和島で強く感じた。津波があった。
1769	明和	6 8.1	地震	熊本、川尻、烈風地震。
1769	明和	6 11.-	地震	肥後大風地震。
1770	明和	7 5.26	気象	この日七時よ1昼夜大雨洪水・随所で被害。
1770	明和	7 11.-	火事	高浜八幡宮全焼。
1771	明和	8		
1772	安永	1 2.29	火事	江戸大火・死者4百余人。2.30にも続く。
1772	安永	1 この夏	気象	この夏大旱魃・稲作損耗甚だし。
1772	安永	1 7.2	気象	この夜より3日にかけて大風大雨。
1773	安永	2		
1774	安永	3		
1775	安永	4 この春	気象	非常の長雨・小麦不作。
1776	安永	5		
1777	安永	6 1.8	地震	22時肥後大地震・一夜に7度、翌日も揺れる。
1777	安永	6 7.25	気象	6時頃より北の大風大雨次第に吹きつのもり、8時東風となり、次いで南東の風、12時さらに、西の烈風・田6分通り損耗、富岡では潰家98軒などの被害。
1777	安永	6 8.24	気象	この夜20時より大風大浪、西の海大荒れ、富岡三丁目堀切打越す。
1777	安永	6 9.7	暮らし	この秋、風水害で田の損所甚大・不作。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1778	安永	7 2.5	地震	肥後川尻大地震3回。 熊本、川尻にて大地震3回。
1778	安永	7 7.1	気象	肥後大風雨、洪水。
1778	安永	7 8.8	気象	大風。
1778	安永	7 この秋	暮らし	風水害で、稲作不作。
1779	安永	8 9.28	火山	桜島大噴火・死者1万6千余人・肥後地方も地震頻発。
1779	安永	8 この年	病気	益田村で疱瘡流行。
1780	安永	9		
1781	天明	1 3.18	火山	桜島また噴火。
1782	天明	2 この春	暮らし	田虫害、被害甚大。
1782	天明	2 7.2	気象	この日より、3日まで南東の風吹き、3日10時まで大風大雨・後に西に廻り風凪ぐ。西海岸沿い大浪で浸水被害随所・田畑損耗多し。
1782	天明	2 7.17	気象	大風、作物大痛み。
1782	天明	2 8.2	気象	大風、田傷み。
1782	天明	2 この秋	暮らし	この秋、虫害、風害で収穫ゼロの村も多く、大凶作。
1783	天明	3 7.8	火山	6.29より鳴動を始めた浅間山大噴火。
1783	天明	3 7.23	気象	肥後強風雨。
1783	天明	3 この夏	暮らし	気候不順で夏なのに冬のように冷氣厳しく、米国不熟・大凶作。
1783	天明	3 この年	暮らし	諸国飢饉、奥羽が最も甚だしく、九州が次ぐ。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1784	天明	4 7.24	火事	長崎大火。
1784	天明	4 この年	暮らし	諸国飢饉、奥羽殊に甚だしく、疫病が流行。
1785	天明	5 5.1	気象	この日より降雨無し、6月24日まで大旱魃。
1785	天明	5 9.5	気象	大風。
1785	天明	5 この年	暮らし	夏の干ばつ、秋の大風にて、非常の凶作。
1786	天明	6 この秋	暮らし	稲作甚だ不作。
1787	天明	7 この春	暮らし	長雨にて麦作不作、収穫半減以下。
1787	天明	7 この夏	暮らし	諸国飢饉。
1788	天明	8 1.29	火事	京都大火・18万3千戸焼失・皇居も炎上。
1789	寛政	1 3.14	火事	富岡町大火(南向火事)・類焼家屋500軒。
1789	寛政	1 6.-	気象	この月初旬より下旬まで雨多い・ことに14から15日かけて洪水、田損所多い・しかし、熊本地方は旱魃湯水。
1789	寛政	1 10.8	地震	熊本大地震・この日までに7日間昼夜数度揺れる。
1790	寛政	2 7.-	気象	旱魃。
1791	寛政	3		
1792	寛政	4 3.1	地震	13時より大雨、15時大地震・20時頃まで13度襲震。それより連日日々夜々余震止まず。 熊本地方大地震・13回強震・これより連日地震止まず。
1792	寛政	4 3.5	地震	9時、15時、21時ころ三度大地震。甕の水ゆすりたるほど。島原は更に震度が大きいという情報が入る。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1792	寛政	4 3.12	地震	地震少しは薄らぐが、15日頃昼夜4,5度揺れ、晦日まで続く。
1792	5.21 寛政	4 4.1	火山地震	この夜島原温泉岳大爆発・対岸の肥後筋、天草東筋一帯に津波が襲来し、流失家屋、溺死者。その他被害甚大。 雲仙岳:前年10月から始まった地震が11月10日頃から強くなり、山崩れなどでたびたび被害があった。4月1日に大地震2回、前山(天狗山)の東部が崩れ、崩れ土約0.34km ² が島原湾に入り津波を生じた。対岸の肥後でも被害が多く、津波による死者は全体で1万5千、「 島原大變肥後迷惑 」と呼ばれた。
1792	寛政	4 6.25	気象	朝南東の風強く次第に吹きつりの、13時すぎより南風になり、大強風。
1792	寛政	4 6.29	火山	富士山震動して岩石が飛び、死者20余人。
1792	寛政	4 7.23	気象	この日4時頃より東風強く、追々東南の風になり、夜になり大風。
1792	寛政	4 7.25	気象	4時頃よりまたまた北風強く、夜になり大風雨・
1792	寛政	4 7.25	暮らし	大風雨により作物の被害大きく、半さくなり・これは、天草のみならず諸国も同じ。
1793	寛政	5 3.-	気象	2月から3月にかけて長雨続きで、麦作半作。
1793	寛政	5 6.-	暮らし	米穀高値で、郡中いよいよ困窮する。
1793	寛政	5 9.-	暮らし	秋作は豊作。
1794	寛政	6 3.-	病気	富岡で疱瘡発生。山小屋へ隔離する。
1794	寛政	6 4.-	病気	この月初旬、山小屋隔離の疱瘡人を自家養生させたところ、たちまち流行しだし、町中8百余人も患いつき、内80人ほど死去。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1794	寛政	6 6.-	病気	富岡町の疱瘡拡大し、町中残らず患いこむ。また志岐へも伝染する。
1794	寛政	6 10.29	病気	志岐村の疱瘡完全終息。
1795	寛政	7 10.-	暮らし	秋作不作でこの月より穀類値上がり。
1796	寛政	8 8.3	気象	この夜大強風。
1796	寛政	8 8.1	気象	この晩より翌日10時まで、大風雨洪水にて、田畑の被害甚大・田は半作、畑3分作。
1797	寛政	9 10.2	火事	八代城、落雷により焼失。
1798	寛政	10		
1799	寛政	11 3.-	火事	御領村大火・芳證寺類焼により堂宇悉く焼失。
1799	寛政	11 5.-	気象	この月中旬頃より早魃。
1800	寛政	12 この春	暮らし	郡中夫食に差し支え、村々困窮に及ぶ。
1800	寛政	12 9.3	火事	この夜志柿村枝郷瀬戸大火・家数100軒余り焼失。
1801	享和	1 8.19	気象	大風吹き、田畑野損所少なからず。
1801	享和	1 8.3	火事	26日に富岡町で火災あり、20軒ほど焼失したばかりなのに、この夜半またまた下町で不審火が起きる。
1802	享和	2 4.8	気象	この日より10日まで強雨洪水。
1802	享和	2 5.18	気象	この日より6月3日まで雨天続く。
1802	享和	2 6.4	気象	この日より7月17日まで、44日間干天続き・大凶作。
1802	享和	2 8.5	気象	強雨洪水。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1803	享和	3 3.26	火事	樋島村大火。
1803	享和	3 4.22	気象	この日より5月23日まで降雨続く。
1803	享和	3 5.1	暮らし	大雨洪水・郡中田畑の荒地頻出・特に被害の大きかった下津深江村他13ヶ村は、見分の上5百石減石される。
1803	享和	3 この夏	病気	郡中麻疹大流行。
1803	享和	3 9.23	火事	この夜上津深江村で出火、家数16件焼失。
1804	文化	1 4.23	気象	この日より連日降雨、洪水。
1804	文化	1 5.14	気象	大雨洪水。
1805	文化	2 7.-	気象	干天続く。
1806	文化	3 6.-	気象	干天続く。
1806	文化	3 8.12	火事	23時頃富岡三丁目で火災・75軒類焼。
1807	文化	4 12.14	病気	高浜村で疱瘡流行・罹病者180名に及び・庄屋上田源太夫医師宮田賢育を頼み、山小屋での救護に当たる・罹病者150人中61人死亡・その後医師引取後さらに14人患い、11人が死亡、更に20人も続出・いずれも他国養生に出す。
1808	文化	5 3.16	病気	大矢野三か村で疱瘡流行のため、宗門改め廻村が除かれる。
1808	文化	5 11.3	地震	肥後地震。 熊本地震。
1809	文化	6 3.1	病気	大矢野三か村、今年も宗門改め除かれる。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1809	文化	6 8.-	病気	志岐村に疱瘡流行。10月に入ってもますます万延・庄屋が隣村に立ち退くなど、村政(年貢納など)混乱する。
1810	文化	7 1.-	病気	去年冬以来、富岡町、しきむらで疱瘡大流行。
1810	文化	7 2.13	病気	志岐村の疱瘡終焉。
1810	文化	7 3.2	病気	富岡町の疱瘡終焉。
1810	文化	7 5.18	気象	この日より20日まで強雨大水。
1810	文化	7 6.-	気象	この月初旬強雨大雨。
1810	文化	7 10.2	気象	22時頃の強風で、富岡町内圍置きの組々初貯蔵蔵吹き倒される。
1811	文化	8 4.3	気象	この日より5月9日まで強雨大水。
1812	文化	9		
1813	文化	10		
1814	文化	11 7.3	火事	高浜村大火・115軒類焼・八幡社も焼失。
1815	文化	12 5.7	気象	この日より27日まで干天。
1815	文化	12 7.6	気象	この日より8日まで強雨洪水。
1815	文化	12 7.28	気象	9日より干天続き。
1815	文化	12 8.12	気象	強雨洪水。
1816	文化	13 1.13	火事	湯舟原村舟津より出火。
1816	文化	13 この年	火事	魚貫村大火・90余軒焼失。
1817	文化	14		

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1818	文政	1 6.23	気象	干天続き。
1819	文政	2		
1820	文政	3 6.17	気象	大雨洪水。
1820	文政	3 12.-	病気	郡中諸村、悪性の流感流行。
1821	文政	4 5.-	気象	大雨洪水。
1822	文政	5 8.-	病気	長崎でコレラ流行、死者多数。
1823	文政	6 2.23	火事	牛深八幡宮焼失。
1823	文政	6 8.-	気象	諸国大旱魃。
1824	文政	7		
1825	文政	8 8.13	気象	この日及び翌14日強雨。
1825	文政	8 この冬	気象	寒気強く、柑橘類及び茶樹多く枯れる。
1826	文政	9 6.21	気象	大雨洪水。
1826	文政	9 9.7	気象	この日より9日まで強風。
1827	文政	10 5.19	気象	この夜より強雨・20日ことに大雨。
1827	文政	10 6.4	気象	強雨。
1827	文政	10 7.23	気象	この日より24日まで大雨・23日より翌日にかけて大風も加わる。
1827	文政	10 11.29	気象	この夜雷鳴烈しく大雨、特に肥後方面小石のごとき雹が降る。

天草災害史年表

西暦		元号		月日	種別	内 容
1828	5.26	文政	11	4.13	地震	13日夜22時頃大地震・たびたび揺すり、14日朝まで余震あり・高潮で各所の新田土手損壊で浸水。 八代地方地震5回。22時頃大地震・夜中度々揺れ、14日朝まで余震あり・4月20、21、27日に余震あり。 M 6.0 長崎:出島の周壁が数か所潰裂。天草でも烈しかったという。天草の海中で噴火に似た現象があったという。
1828	5.26	文政	11	4.2	地震	23時頃地震・翌21日2時地震。
1828	5.26	文政	11	4.24	地震	9時頃地震・20時頃小地震。
1828	5.26	文政	11	5.5	気象	朝より終日強雨、大水
1828	5.26	文政	11	5.2	気象	この日より雷雨・翌日大雨。
1828	5.26	文政	11	5.29	気象	この日より翌日30日まで大雨、洪水。
1828	5.26	文政	11	5.29	火山	阿蘇山噴火・大石硫黄灰砂降る。
1828	5.26	文政	11	7.2	気象	昨夜より強風雨、大水。
1828	5.26	文政	11	この秋	暮らし	大凶作。
1828	5.26	文政	11	8.6	気象	強雨・南風烈し。
1828	5.26	文政	11	8.9	気象	24時頃より東南の風大いに吹き出し、次第に強く吹きつものり、後西風大烈風・未曾有の被害。【被害状況は別欄】
1828	5.26	文政	11	8.23	気象	大風。
1828	5.26	文政	11	9.1	気象	大風。
1829		文政	12	1.-	病気	昨年冬より志岐村で疱瘡流行・10件ほど患い、富岡でも1軒発生。

天草災害史年表

西暦		元号		月日	種別	内 容
1829		文政	12	2.23	火山	雲仙岳荒れ、泥土降り、山々積雪。
1829		文政	12	2.25	気象	15時頃雷鳴烈しく強風雨、200g弱の氷降る。
1829		文政	12	2.-	病気	大矢野島3ヶ村に疱瘡流行。
1829		文政	12	5.24	気象	この夜大風。
1829		文政	12	8.8	気象	大風、豪雨、稲作損耗。
1829		文政	12	この秋	暮らし	郡中不作。
1829		文政	12	11.3	気象	大風、諸々風損。
1830		天保	1	4.5	気象	強風、出水。
1830		天保	1	6.14	気象	この夜から翌15日にかけて大雨、洪水・郡中田の損傷少なからず、特に杵宇土村、新休村被害甚大。
1830		天保	1	7.2	気象	この日より翌3日まで大風雨、大水。
1830		天保	1	7.2	地震	京都十里四方大地震。市中にて死者三百余人。
1830		天保	1	7.7	気象	この日より翌8日まで大風雨、洪水、北の風。
1830		天保	1	7.10	気象	大雷雨・ところどころに落雷。
1830		天保	1	7.14	気象	この日より翌15日にかけて大風雨、出水。
1830		天保	1	この頃	暮らし	度々の強風豪雨の連続で、気候不順、作物不熟。
1830		天保	1	この年	病気	志岐、富岡で疱瘡流行。
1831		天保	2	4.-	暮らし	この春麦作凶作。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1831	天保	2 5.28	気象	この日より翌29日まで大雨洪水。
1831	天保	2 5.-	暮らし	諸国雨勝ちで、水害、虫害重なり、作物大痛み・米価高騰。
1831	天保	2 6.1	気象	強雨出水。
1831	天保	2 7.8	気象	朝より豪雨、昼時分まで土砂降り、洪水。
1832	天保	3 2.17	火事	富岡町大火・下町より三丁目まで153軒焼失。上町屋敷詰役長屋2件とも焼け、寿覚院、学法寺も類焼。
1832	天保	3 2.26	火事	湯島で大火・家数150軒、小屋62軒全焼。
1832	天保	3 4.1	病気	肥後筋で悪疫流行。
1832	天保	3 7.01	気象	6.16より干天続く。7.14に少々の雨みたるものみでこの日まで33日間干天続き。
1832	天保	3 8.4	気象	この日12時より急な土砂降り・遠雷・6日間降り続く・前日まで、通算48日間の照り続きのため、恵みの雨となる。
1832	天保	3 9.4	気象	この日より降り出した雨が、10日19時より豪雨、風も吹き、翌11日夕方まで大風雨・14日に居たりようやく止む。
1833	天保	4 6.1	気象	大雨洪水。
1833	天保	4 7.-	暮らし	稲作虫害。
1833	天保	4 7.-	気象	この月より8月にかけて旱魃。
1833	天保	4 8.-	暮らし	この夏水害、虫害で被害少なからず。
1833	天保	4 9.11	火事	赤崎村大火・類焼75軒。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1833	天保	4 10.1	病気	この頃、肥後一円、風邪流行。
1834	天保	5 1.-	暮らし	米価高騰・諸人の困窮益々甚だしくなる。
1834	天保	5 2.7	火事	江戸大火。
1834	天保	5 2.-	病気	大江村、福連木村に疱瘡人少々発生。
1834	天保	5 3.-	病気	崎津村で疱瘡流行。村極難。
1834	天保	5 4.-	病気	この月下旬より古江村で疱瘡流行、村大難。
1834	天保	5 6.8	気象	この日より翌9日にかけて、大雨洪水。
1834	天保	5 7.1	火事	大坂大火・2万戸焼失。
1834	天保	5 7.21	気象	この日より8月10日まで干天続き・日数49日間。
1834	天保	5 7.-	病気	大矢野三ヶ村に疱瘡流行。
1834	天保	5 7.-	暮らし	この夏、早魃・虫害で、被害少なからず。
1834	天保	5 8.11	気象	この日大雨・潤雨。
1835	天保	6 2.8	火山	富士山震動・雪塊飛散。
1835	天保	6 4.21	気象	この日より24日まで大雨洪水。
1835	天保	6 5.6	気象	北の大風。
1835	天保	6 5.-	気象	この月下旬より6月上旬にかけて大雨洪水。
1835	天保	6 6.18	気象	昼夜大風、夜は強風も伴う。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1835	天保	6 閏7.5	気象	強風雨。
1835	天保	6 閏7.17	気象	この日より21日まで東の大風、21日は大雨加わる。
1835	天保	6 10.2	火事	大坂またまた大火。
1836	天保	7 5.-	気象	この月より7月初旬にかけ降雨、出水多し。
1836	天保	7 6.22	気象	この頃、気候不順で夏季に冬着を着る寒さ。
1836	天保	7 7.7	気象	大風、大雨。
1836	天保	7 この年	暮らし	京都では流離餓死するもの5万6千人に及ぶ。 大坂では、米穀ますます騰貴し、餓死する市民多し。
1837	天保	8 1.23	気象	大雨、洪水。
1837	天保	8 2.19	事件	大塩平八郎の乱。
1837	天保	8 2.-	気象	早春より雨多く、麦不熟凶作。
1837	天保	8 3.2	病気	上津深江村で疱瘡人出る。同村庄屋も患う。
1837	天保	8 3.14	気象	この日及び24日、大雨洪水。肥後では行倒人多し。
1837	天保	8 4.-	気象	この月より5月にかけて、天候不順・度々風雨雷鳴あり、大霜又は巨大な雹が降ることもたびたび。
1837	天保	8 6.8	気象	昼頃から23時にかけて、南風吹きつりのり豪雨。
1837	天保	8 6.-	暮らし	郡中一統困窮、飢える。石本救米で救われた部分もあるが、御所浦、古江村边上島筋に、僅かながら餓死人出る。
1837	天保	8 7.1	気象	終日強雨。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1838	天保 9	3.-	病気	疫病流行。
1838	天保 9	4.4	火事	長崎大火・1393戸焼失。
1838	天保 9	5.27	気象	大風。
1838	天保 9	7.23	気象	前夜より大風・諸所被害・このひ夕方大雨、翌24日夕方から大雨雷鳴。
1838	天保 9	10.-	病気	楠浦村で疱瘡流行。
1839	天保 10	4.2	気象	大雨洪水。
1839	天保 10	4.-	病気	牛深村疱瘡大流行・村十極難。
1839	天保 10	5.28	気象	大雨洪水。
1840	天保 11	5.17	気象	大雨洪水。
1840	天保 11	6.15	地震	肥後表昼夜3,4度地震・八代地方強し・21日また地震。
1841	天保 12	1.1	気象	この日大雪。
1841	天保 12	3.-	気象	この月以来強雨頻繁・5月中旬に及ぶ。
1841	天保 12	6.15	地震	昼夜3,4度地震。八代、芦北地方面強し・21日にも強震。 (年譜は11年に記載)
1842	天保 13	1.2	病気	富岡志岐に疱瘡発生、次第に蔓延する。
1842	天保 13	2.16	病気	富岡志岐の疱瘡、罹病者千人余に上り、死者50余人。
1842	天保 13	5.26	気象	この日強雨出水。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1842	天保 13	7.-	気象	大旱魃。
1843	天保 14	5.3	気象	豪雨・出水。
1843	天保 14	8.-	気象	大旱魃。
1843	天保 14	9.1	気象	高潮、2日3日と大風、新田大荒れ・広瀬村塩浜堤2カ所破損浸水。
1844	8.8 弘化 1	5.1	火事	江戸城本丸炎上。
1844	弘化 1	6.2	気象	大風。
1844	弘化 1	6.25	地震	この日より28日まで昼夜度々自信あり。 肥後北部:28日まで地震が多く、久住北里で特に強かった。杖立村で落石により百姓家崩れる。
1844	弘化 1	7.-	気象	この月より8月にかけて旱魃。
1844	弘化 1	8.29	気象	大風。
1845	弘化 2	5.2	気象	12時より大風雨・翌21日豪風にて出水。
1845	弘化 2	6.3	気象	この日暴風雨。
1846	弘化 3	3.29	気象	17時より強雨、21時より南東の大風。
1846	弘化 3	閏5.9	気象	強雨・洪水。
1846	弘化 3	8.4	気象	強雷雨。
1847	弘化 4		事件	弘化の大一揆。

天草災害史年表

西暦		元号		月日	種別	内 容
1848	1.25	嘉永	1			熊本地震・熊本城で石垣損壊、座敷の壁が落ちるなどの被害。 (弘化4.12.20) 熊本:熊本城内で石垣を損じ、座敷などの壁が落ちた。
1849		嘉永	2	5.13	気象	強雨・洪水。
1849		嘉永	2	6.-	気象	大旱魃。
1849		嘉永	2	7.12	気象	この日より翌13日にかけて大風雨・田畑の被害甚大。
1849		嘉永	2	7.21	気象	豪雨・洪水。
1849		嘉永	2	7.-	病気	オランダ船、初めて牛痘法をもたらす。 8.14 長崎出島の医官モーニケ、自ら長崎市民の小児に牛痘を植えにかかる。 8.16 肥前佐賀城主鍋島齋正、牛痘種をオランダ人より購入し、諸士に試みる。
1849		嘉永	2	8.-	暮らし	大凶作。
1850		嘉永	3	1.13	気象	この日より15日まで大雪。
1850		嘉永	3	1.28	病気	この日までにモーニケが種痘した長崎の小児381名に達する。
1850		嘉永	3	3.-	暮らし	去年の風雨害による凶作で、郡中夫食米に差し支え、益々困窮の小前島続出。
1850		嘉永	3	7.11	気象	この日10時より大風・16時収まる・この突然の突風で富岡から出漁していた漁師60余名行方不明となる・古城山の倒木100本に及ぶ。
1850		嘉永	3	7.14	気象	この日より20日まで日々雷鳴続き、落雷頻繁。
1850		嘉永	3	8.7	気象	大風雨・11時より16時まで吹き荒れる。田畑損害。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1851	嘉永	4 この春	暮らし	累年の凶作でいよいよ郡中夫食にも差し支え深刻に困窮する。
1851	嘉永	4 6.25	気象	この日大雨。
1852	嘉永	5 1.15	気象	この日大雪降る。
1852	嘉永	5 8.22	気象	大風雨。
1853	嘉永	6		
1854	安政	1 11.5	地震	この日及び7日、熊本地震。 「安政南海地震」。推定M8.4・肥後でも死者6人、家屋倒壊907棟。
1855	安政	2 1.2	気象	この朝豪雨強雷・昼に止む。
1855	安政	2 この春	病気	大江、高浜、崎津、今富の4ヶ村に疱瘡流行。
1855	安政	2 3.1	気象	この日より7日まで雨続きで麦作大痛み。
1855	安政	2 3.25	気象	この日より29日まで連日大雨・麦作大凶作。
1855	安政	2 10.2	地震	江戸で大地震・死者20万余人に達す。
1855	安政	2 11.5	地震	大地震(1854.11.5の地震のことか?)
1856	安政	3 5.7	気象	21時より土砂降りの豪雨・翌朝まで続く・洪水。
1856	安政	3 5.21	気象	強雨・がけ崩れ等損所多し。
1856	安政	3 7.1	気象	大旱魃・作物の干損はもとより、井戸水も枯れ困窮。
1856	安政	3 8.13	気象	この日より翌日まで雨・干天は5月23日よりこの日まで実に80日に及ぶ。
1857	安政	4 10.7	火事	深海村出火。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1857	安政	4 12.2	地震	数十年稀な地震続く・熊本城石垣所々破損。
1858	安政	5 2.1	火事	江戸大火・12万4百戸を焼く。
1858	安政	5 6.28	気象	強雨・東北の風吹きことのほか冷氣・裕を出して着用するほど。
1858	安政	5 6.29	気象	4時より大風雨・10時頃風勢い衰える。
1858	安政	5 7.7	気象	大雨・東北の風吹き冷氣・ほとんど隔日の雨にて気候不順・凶年。
1858	安政	5 7.-	病気	コレラ流行・死者多し。
1858	安政	5 8.-	病気	コレラ郡中各村に流行・特に楠浦村激烈を極む。
1858	安政	5 10.9	火事	楠浦村船津大火・類焼111軒。
1859	安政	6 6.9	気象	大風雨。
1859	安政	6 8.-	病気	郡中にまたコレラ流行。
1859	安政	6 12.12	火事	二江村船津で大火。
1860	万延	1 3.-	暮らし	この春、麦作ことのほか凶作。
1860	万延	1 6.9	気象	19時より翌日朝方まで大風雨・村々潰家、漁船難破島続出・被害甚大。
1860	万延	1 この夏	暮らし	郡中夫食に差し支える極難。
1861	文久	1 8.3	気象	夜半より大風、翌日朝強雨も加わり、後南風に廻り烈風、10時風弱まる。
1862	文久	2 3.2	火事	牛深大火・類焼152軒。

天草災害史年表

西暦	元号	月日	種別	内 容
1862	文久	2 6.4	気象	この日より翌日にかけて強雨洪水・諸所に損所頻出。
1863	文久	3 1.-	病気	佐伊津村で疱瘡大流行。
1863	文久	3 7.3	気象	大風・郡中損所多し。
1863	文久	3 8.-	病気	富岡町でコレラ発生。
1863	文久	3 9.18	暮らし	珍しく富岡湊で鰯漁3日3晩に亘り大量。
1863	文久	3 12.27	火事	この夜、上津深江村で大火。
1864	元治	1 6.3	気象	大風。
1865	慶応	1 閏5.2	気象	この夜半から翌3日朝にかけて夜通し大雨。
1866	慶応	2 1.-	気象	この春気候不順・1日替わりの雨繁で、麦作不熟。
1866	慶応	2 3.3	地震	この夜20時大地震。 20時、熊本大地震。
1866	慶応	2 12.1	火事	湯島で大火・類焼101軒、小屋80軒。
1867	慶応	3 9.-	気象	大風・大江崎西平山、魚貫崎出崎山、富岡白岩崎の遠見小屋破損。
1868	明治	1		
1874	明治	6 7.28	地震	人吉大地震
1889	7.28 明治	22		熊本地震・熊本城の石垣など破損・推定M6.3。 M6.3 熊本県西部:熊本市を中心に半径約20kmの範囲に被害があり、県全体で全潰239、死20、橋の落下や破損が多かった。
1894	8.8 明治	27		阿蘇山西麓で大地震・推定M6.3～6.8。

天草災害史年表

西暦		元号		月日	種別	内 容
1895	8.27	明治	28		地震	阿蘇山西麓で大地震・推定M6.3～6.8。(前年の地震の重記?)
1898	12.4	明治	31		地震	熊本県東部で大地震・推定M6.1・数日間に数十回の余震あり。
1912		大正	1			
1913		大正	2			
1914	1.12	大正	3		火山	桜島噴火・鹿児島市で住家全倒39、死13、鹿児島郡で死22余り、小津波があった。W・午前10時10分、大噴火・噴煙は上空3km以上に達し、岩石が高さ1kmまで吹き上げられた。爆発は継続し、火砕流が発生、島内各所で火災が発生・島であった桜島が陸続きとなった。噴火活動は、大正5年になってやっと終息した。
1916	12.3	大正	5		地震	熊本県南部で大地震・推定M6.1。
1922	12.8	大正	11			橘湾:被害は主に島原半島南部、天草、熊本市方面・長崎県で死26、住家全壊195、非住家459、このうち2回目の地震による死3。
1931	12.2	昭和	6			21日から26に日にかけて、八代海で群発地震・推定m5.6～5.9。
1946	12.2	昭和	21			南海大地震(震源は紀伊半島沖)・推定M7.2。熊本でも家屋倒壊により死者2人、家屋倒壊6棟。
1975	1.23	昭和	50			熊本県阿蘇地方:一の宮町三野地区に被害が集中し、た。熊本県で傷10、建物全壊16、半壊17、道路損壊12、山崩れ15。
1995	1.17	平成	7			兵庫県南部地震
2004	10.2	平成	16			新潟県中越地震
2011	3.11	平成	23			東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)

天草災害史年表

西暦		元号		月日	種別	内 容
2016	4.14 4.16	平成	28			熊本地震前震 熊本地震本震

1828(文政11)の大風被害	波風損壊反別、田1099町2反8畝7歩・畑235町9反2畝5歩・ 全壊家屋・4686軒・半壊家屋1415軒・ 神社倒壊30・鳥居10本・寺院10・ 並木松倒木・89本・留山痛木1万本・その他損木 8975本・ 廻船破損23艘・同流失2艘・漁船破損546艘・同流 失287艘・ 伝馬船破損305艘・同流失266艘・ 溺死人22人・潰家死人11人・同怪我2人・ 牛馬死亡13頭・同流失6頭・同怪我4頭・
資料『天草近代年譜』 は熊本日日新聞 H28.5.27の「たびたび大地震 余震 “しつこく” 中世以降の熊本」 の記事記載分。 ただし、年譜と一致する場合は除く。 は理科年表。Mは理科年表。 WはWikipedia	